

平成 23 年度第 2 回学校評議員会報告

平成 23 年 11 月 9 日（水）15 時 45 分から、第 2 回学校評議員会を本校ゆうゆうスクエアにて行いました。

当日ご参加いただいた学校評議員は、次の方々でした。

- 川野 正雄 様（川崎医療福祉大学非常勤講師）
- 野崎 新吾 様（ベネッセコーポレーション大阪支社長）
- 増田 安泰 様（有限会社 備前清水木材店 取締役）
- 青木 洋子 様（岡山市立岡山後楽館高校）
- 高間 直美 様（保護者）

始めに、第 1 回学校評議員会で評議員の方からいただいたご意見をもとに邑久高校で取り組んだ事についての報告を行いました。

- ・ 学校行事や生徒の様子などを中心に DVD にまとめて中学校などへ配布
- ・ 写真などでヨット部や陸上部、吹奏楽部などの活躍をプリントにして配布
- ・ 出身中学校へ生徒の頑張っている姿を伝える
- ・ 授業を自由にみてもらえる学校開放日の設定
- ・ 学校ホームページの充実、「邑久高ニュース」のブログ化、メール配信システムの開始など

次に、以下の点について協議を行ったところ、評議員の方から貴重なご意見をいただきました。

- （１）普通科高校である邑久高校に望むこと
- （２）本気で自分の将来を考える、進路意識を持たせるための方策
- （３）学校案内「夢に向かって」への感想・アドバイス

＜評議員の方からの主なご意見＞

- ・ 大切なことは、大学や専門学校や就職のいずれにしても、自分が何をしたいのかをしっかりと探して進路を決定していくことだ。挑戦することで悔しい思いをするのもよい。大学生でも、大学に入ってからやっぱりこの学部は自分には合っていないというような悩みを抱えている学生は少なくないので、将来自分は何をしたいか、どんな仕事に就いて生活していくのかということをし、しっかり考えて、進路を決めるべきだ。
- ・ 第 1 回の会議後に様々なことをされているのを聞いて、フットワークの軽さを感じた。邑久高校の中のことを外に向かって伝えることはとても大切だと思うので、即効性はないかもしれないが学校について保護者や在校生からも様々なことが発信されるような取組を継続して行っていただきたい。邑久高校がマスコミに載ることが増えている。
- ・ 今の企業はとても厳しいので、仕事に就いたときにどれだけ活躍できるか、どれだけ伸び続けることができるかがポイントである。
- ・ 修学旅行で上京したときなどに、卒業生のいる学校や企業に訪問して関わりを持たせるといった取組が全国的に行われている。いろいろな場面で活躍している卒業生をネットワーク化していくとよい。
- ・ 入学時のモチベーションを下げないような取組を、卒業まで続けてほしい。生徒も親も安易に早く決めたがる傾向がある。志望の大学へ入るのは大変であることを保護者にも理解してもらうことが大切。

- ・普通科高校としては、もう少しセンター試験の受験者が多くてもいいのではないか。はじめからセンター試験をあきらめてしまうのではなく、受験してチャンスを広げるようにするのも一つの手である。受験したら思いの外得点できて、可能性が広がるかもしれない。
- ・進路意識を持たせるための方策として、「ふるさと先生」などの形で卒業生を呼んで話を聞く機会があればよいのではないか。社会で広く活躍している先輩の話を聞いて「あのような人になりたい」というような「あこがれ欲」を刺激してやれば、一歩踏み出すことが出来るのではないか。全体ではなく、クラス単位で話を聞くなどの工夫も必要だ。
- ・現在の時代背景や社会情勢からやむを得ないところもあるが、やはり今の若い世代はあまり苦労をしていないので、「ハングリー精神」に欠けるところがある。保護者も含めて、将来のビジョンについてしっかりと考えることができるようにしていくことが大切ではないか。
- ・大学退学者が10万人近くいる。オープンキャンパスなども充実しているのに、こんなはずではなかったとやめていく。情報を与えられすぎているのかもしれない。
- ・先を見通して頑張れる生徒と、自分では考えられない生徒がいて、二極化している。
- ・一生勉強できる力が必要。とにかく本を読むことが大切。
- ・社会の厳しい状況や現実を知らせることも大事だ。
- ・保護者に土曜教室を開いている高校もある。保護者を巻き込みながらやればよい。
- ・早いうちから将来の職業への意識を持たせる方策として、キャリア探究会などで学校の外から講師を呼んで、いつもとは少し違った角度から現場の生の声を聞くと新鮮でよいのではないか。
- ・学校案内「夢に向かって」はわかりやすくてよい。学校を知ってもらうためにはとにかく学校にきてもらうことと、情報発信が大切。
- ・邑久は田舎だが、世界を見せていつでも世界とつながっているという意識を持たせることが大切だ。そのために海外と姉妹校づくりをして、交流してはどうか。実施している学校も多い。
- ・広報では、相互にコミュニケーションがとれる形を今後考えていく必要がある。ホームページの効果には限界があるので、フェイスブックやツイッターなどを取り入れている市などもある。相互にコミュニケーションがとれる形で、学校側からもきちんと回答を返す形を考えていく必要がある。

様々なご意見をいただき、充実した学校評議員会になりました。いただきましたご意見を学校運営に活かしたいと思います。